

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
27-70	高等学校	家庭	家庭基礎	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	家基 311	家庭基礎 自立・共生・創造		

1. 編修の趣旨及び留意点
<p>これから時代を生きる生徒が、現在そして生涯にわたって、希望を持ち、たくましく、よりよく生きる力を身に付けることを目指して、編修しました。</p> <p>義務教育の家庭科で身に付けた生活の自立をベースとし、さらに知識や技術を身に付けたり、異なる世代の人々との共生に目を向けたりすることを通して、自立して生活できる力の育成を目指すといった、高等学校ならではの家庭科を学べるようにしています。</p>
2. 編修の基本方針
<p>上記1. の趣旨に基づき、次のような方針で編修しました。</p> <p>①自分や家族の日常の生活に関心を持ち、日々の生活の現実認識をして見直すことから始められるように、各章の導入は、自分の生活を見直すところから入るようにしています。また、主体的かつ実践的な活動を促すために、各見開きに「TRY」を設け、調べたり、学習を深めたり、実践に結び付けたりしています。</p> <p>②生活の根底にある原理・原則について、なぜそうなっているのか、なぜそうするのか、社会科学的・自然科学的に追求して理解することを重視し、本文記述を工夫すると同時に、大きい判型を効果的に使って、記述を補う資料を充実しました。本文中の重要語句については、青色の太字で示し、基礎・基本の徹底を図るようにしています。</p> <p>③学習して理解したことを生活に生かしたり、生活課題を解決したりするために、実際の生活の場で実践できる技術・技能が身に付くようにしています。それらの技術・技能が、生活の自立や生涯にわたる健康な生活の基盤となることに気付き、それらを身に付けることの重要性を理解できるような記述をしています。また、生徒の実態に配慮し、日常生活に役立つ調理実習や被服製作の技術・技能については、「小学校、中学校での学習を振り返ろう」という資料ページを設けて、確実な定着を図るようにしています。</p> <p>④自分と異なる世代の人々とのつながりに目を向け、お互いを尊重する生活が考えられるように配慮しています。また、「家族・家庭」、「保育」、「高齢者」の章の後に「共生」の章を配し、全ての人々がよりよく生きられるような新しい共生の形についても目を向けるようにしています。男女共同参画社会を目指し、男女の協力や責任の分担が重要であることについても、家族や保育の内容など、随所で取り上げています。</p>

⑤これから時代を生きるうえで、環境との共生も重要な課題であることをふまえ、持続可能な社会を目指して一人一人が生活の仕方を考え、実践できるようにしています。衣食住の各章に、「持続可能な社会を目指す」内容を位置付け、衣食住の生活と関連する内容をまとめて扱うと同時に、消費者として積極的に環境に配慮した行動をとるための総合的な視点を扱ったページも設けています。

⑥自立と共生をふまえたうえで、総合的に判断し、主体的な意思決定を行って、新しい生活を創造していくことを目指しています。最後の章を「生活設計」とし、それまでの学習をふまえて、今後の生活に生かせるような構成にしています。また、人生を通してキャリアを積みあげていくことについて考えたり、将来の職業生活に結び付けたりできるように、冒頭に「人生の主人公として生きる」を、各章末に「私と仕事」を設けました。

⑦学習したことを生活の中で実践し、より充実した生活を送ることができるよう、「ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動」の内容を充実しています。冒頭の6ページ分を使って、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動について目的や方法、具体的なテーマの見つけ方を示して理解を促すとともに、コンクールで受賞した実践例を掲載して生徒の意欲を高めるようにしています。各章末には、章の内容に関連するテーマを挙げ、学習が生徒の行動変容に結び付くような取り組みを促すページを設けています。さらに、課題について情報を収集し、自分の考えを小論文にまとめることで、生活を深く見つめる力や言語力の育成に役立つページも設けました。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
家庭科の学び方	・家庭科での学習が持続可能な社会をつくることにつながっていくことがイメージできるように関連する多くの写真を掲載しています(第4号)。	見返し1～見返し2ページ
小学校、中学校の学習とのつながり	・義務教育の学習を基に、高校ではさらに幅広く学習することを示すために、学習内容の系統表を入れています(第1号)。	3ページ
生活に生かそう 自分の意見を文章にまとめよう	・学習したことを主体的に生活に生かすホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動をより意欲を持って行えるように、各地の実践事例を紹介しています(第2号)。	4～11ページ
人生の主人公として生きる	・自分の人生や家庭生活と職業の関係を考え、将来の進路に結び付くように、家庭科の学習を俯瞰しながら将来について考えられるページを設けています(第2号)。	12～13ページ
第1章 自分らしい人生をつくる	・かけがえのない存在としての自分をだいじにすることと同時に、自立とはどういうことかを考え、目標を持って生きることを促すようにしています(第2号)。 ・男女共同参画社会を目指し、男女が協力して家庭生活を主体的に営むことができることを重視しています(第3号)。 ・学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に	16～17ページ 28～31ページ 33ページ

	結び付くように、「私と仕事」のページを設けています（第2号）。	
第2章 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> 生まれてくる命の尊さを感じ、その命を見守り、育む人たちがいることに気づくページを設けています（第4号）。 学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私と仕事」のページを設けています（第2号）。 	34～35 ページ 59 ページ
第3章 高齢社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> 高齢社会に生きていくうえで、高齢者を支えていくために具体例を挙げて取り組みやすいように示しています（第3号）。 学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私と仕事」のページを設けています（第2号）。 	60～65 ページ 71 ページ
第4章 共に生き、共に支える	<ul style="list-style-type: none"> 年齢や障がいなどの特性に関わらず、誰もが普通に暮らせる共生社会を目指すユニバーサルデザインの考え方や具体例を紹介しています（第1号）。 地域の災害時に家族、地域社会の一員として適切に行動できるように、自然災害と自助・共助・公助について考えることのできるページを設けています（第3号）。 	76 ページ 78～79 ページ
第5章 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 生活の自立を目指し、技術・技能の確実な定着を図るために、小学校、中学校の調理に関する学習を振り返るページを設けています（第1号）。 食生活に関わる伝統的な生活文化について、紙面の雰囲気を変えて扱っています（第5号）。 学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私と仕事」のページを設けています（第2号）。 	106～107 ページ 122～123 ページ 125 ページ
第6章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活に関わる伝統的な生活文化について扱っています（第5号）。 生活の自立を目指し、技術・技能の確実な定着を図るために、小学校、中学校での衣生活に関する学習を振り返るページを設けています（第1号）。 学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私と仕事」のページを設けています（第2号）。 	148 ページ 149 ページ 151 ページ

第7章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 住生活に関わる伝統的な生活文化について扱っています（第5号）。 学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私と仕事」のページを設けています（第2号）。 	165 ページ 169 ページ
第8章 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> 循環型社会形成のために、生徒自身が地球市民の一員であることを自覚し、Think Globally, Act Locallyに則った行動を促しています。（第4号） 学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私と仕事」のページを設けています（第2号）。 	185～189 ページ 191 ページ
第9章 生活を設計する	<ul style="list-style-type: none"> 家庭科での学習をふまえ、これから自立しながら共生していくために、マネジメントの視点から考えられるように工夫しています（第3号）。 学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私と仕事」のページを設けています（第2号）。 	194～195 ページ 198～199 ページ
食品成分表	<ul style="list-style-type: none"> 我が国伝統の食材であるご飯、みそ、しょうゆなどを写真で紹介しています（第5号）。 	200～207 ページ
日本の伝統	<ul style="list-style-type: none"> 季節感を大切にする我が国伝統の年中行事を紹介しています。あわせて、本来の旬を知ることができるようにイラストを取り上げています（第5号）。 	見返し5～見返し6 ページ

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 本書では、人との関わり方を学んでいろいろな人々と共生しながら暮らせるように、また、物との関わり方を知って自立に必要な力を身に付け、さらに環境との関わり方を考えて実践することを通して、持続可能な社会の一員としての責任が果たせるようになることをを目指しています。
- そういった多面的な視点から総合して考え、判断し、自分の生活を創造していく力を付けさせたいと考え、見返し1～見返し2ページに写真を中心とした高校生の感性に訴える紙面を設けています。

- (備考)
- ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入すること。
 - 「編修の趣旨及び留意点」欄には、編修に当たっての趣旨及び留意点を記入する。
 - 「編修の基本方針」欄には、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために編修の基本方針とした点を記入する。
 - 「対照表」欄については、図書の構成・内容と教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について記入する。詳細は次のとおりとする。
 - 「特に意を用いた点や特色」欄には、教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、図書の構成や内容において編修上特に意を用いた点や特色について記入する。その際、教育基本法第2条各号のうち、特に関連が深いものを文末に示す。（例：第〇号）
 - 「該当箇所」欄には、上記内容に対応する具体的な箇所が分かるように、主な該当箇所のページ（例：〇ページ）を記入する。
 - 必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
 - 「上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色」欄については、上記の記載事項以外に、教育基本法第5条に示す義務教育の目的や学校教育法第21条に示す義務教育の目標、学校教育法第51条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、編修上特に意を用いた点や特色などがあれば記入する。
 - 別紙様式8の分量は5ページ以内とする。

編修意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
27-70	高等学校	家庭	家庭基礎	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	家基 311	家庭基礎 自立・共生・創造		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①本書では、人や物や環境との関わりを学ぶことを通して、生涯にわたって生きていく力の基礎を身に付けられるように配慮しています。人の命や自分の生活、また資源や環境が持続可能となるような社会を目指すということを、本書の最初の見開きで示しています。

②本書の各章は、次のように構成されています。第1章から第4章までのまとめは、家族や地域の人、子どもや高齢者との共生について学び、第5章から第8章では毎日の生活を支える衣食住や経済のこと、及び生活全般に関わる環境について学び、第9章は、第1章から第8章までの学習を総合して、今後の自分の生活を創造していく視点から構成しています。

③学習したことを自分の生活に返すために、ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動を重視しています。自分の生活の中から課題を見つけ、家庭科の学習を生かして解決方法を探るという問題解決のプロセスを身に付け、繰り返し取り組むことでよりよい生活を創造することを目指しています。生徒にとっては、課題を見つけるところまでが難しいという実態に配慮し、4～5ページと各章末のページとを使って、課題発見のヒントを具体的に扱っています。また、学習したことをより積極的に生活に生かせるように、6～9ページやそれぞれの内容において多くの実践例を紹介しています。さらに、10～11ページの家庭科に関わる課題について自分の考えをまとめる学習では、問題解決能力育成の観点とあわせ、言語力育成の観点からも扱えるようにしています。

④自分の人生を創造するうえで、目標を持って、キャリアを積み重ねることの重要性に気付かせるため、12～13ページを設けています。また、職業を意識して、進路を考えることができるように、各章末にその章の内容と関連する職業に就いている人の生き方を紹介しています。

⑤全世界的な取り組みが求められる環境問題に対応するため、消費者としての在り方を考えられるように、第5章から第7章の最後の節で衣食住に関連する課題について扱うと同時に、第8章では全般的な視点から学習できるようにしています。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
家庭科の学び方	(1)～(3)	見返し1～見返し2ページ	1 (計1)
生活に生かそう	(3)	4～9ページ	2
自分の意見を文章にまとめよう	(1), (2), (3)	10～11ページ	(計2)
人生の主人公として生きる	(1)ア (2)カ	12～13ページ	1 (計1)
第1章 自分らしい人生をつくる			
1 生涯発達の視点	(1)ア	14～15ページ	1
2 青年期の課題	(1)ア	16～17ページ	1
3 目標を持って生きる	(1)ア	18ページ	
4 人生をつくる	(1)ア	19～21ページ	
5 家族・家庭を見つめる	(1)ア	22～27ページ	2
6 これからの家庭生活と社会	(1)ア	28～31ページ	1
ホームプロジェクト	(3)	32ページ	
私と仕事	(1)ア (2)カ	33ページ	
			(計7)
第2章 子どもと共に育つ	(1)イ	34～35ページ	
1 子どもの育つ力を知る	(1)イ	36～43ページ	2
2 親として共に育つ	(1)イ	44～49ページ	3
3 子どもとの触れ合いから学ぶ	(1)イ	50～53ページ	2
4 これからの保育環境	(1)イ	54～57ページ	2
ホームプロジェクト	(3)	58ページ	
私と仕事	(1)ア (2)カ	59ページ	
			(計9)
第3章 高齢社会を生きる			
1 高齢期を理解する	(1)ウ	60～63ページ	1
2 高齢者の心身の特徴	(1)ウ	64～65ページ	2
3 これからの高齢社会	(1)ウ	66～69ページ	2
ホームプロジェクト	(3)	70ページ	
私と仕事	(1)ア (2)カ	71ページ	
			(計5)

第4章 共に生き、共に支える			
1 私たちの生活と福祉	(1)エ	72~73ページ	1
2 社会保障の考え方	(1)エ	74~75ページ	1
3 共に生きる	(1)エ	76~77ページ	1
地域の防災力を高めよう	(1)エ	78~79ページ	(計3)
第5章 食生活をつくる			
1 食生活の課題について考える	(2)ア	80~83ページ	1
2 食事と栄養・食品	(2)ア	84~93ページ	4
3 食生活の安全と衛生	(2)ア	94~97ページ	2
4 生涯の健康を見通した食事計画	(2)ア	98~103ページ	2
5 調理の基礎	(2)ア	104~117ページ	7
6 これからの食生活	(2)ア, オ	118~121ページ	1
日本の伝統的な食文化	(2)ア	122~123ページ	
ホームプロジェクト	(3)	124ページ	
私と仕事	(1)ア (2)カ	125ページ	(計17)
第6章 衣生活をつくる			
1 被服の役割を考える	(2)イ	126~131ページ	2
2 被服を入手する	(2)イ	132~139ページ	3
3 被服を管理する	(2)イ	140~143ページ	3
4 これからの衣生活	(2)イ, オ	144~147ページ	1
5 布を用いた生活の知恵	(2)イ, オ	148~149ページ	1
ホームプロジェクト	(3)	150ページ	
私と仕事	(1)ア (2)カ	151ページ	(計10)
第7章 住生活をつくる			
1 住生活について考える	(2)ウ	152~157ページ	2
2 住生活の計画と選択	(2)ウ	158~163ページ	2
3 これからの住生活	(2)ウ, オ	164~167ページ	1
ホームプロジェクト	(3)	168ページ	

私と仕事	(1)ア (2)カ	169ページ	(計 5)
第8章 経済生活を営む			
1 職業生活を設計する	(2)エ	170~171ページ	1
2 計画的に使う	(2)エ	172~175ページ	1
3 国民経済・国際経済と家庭の経済生活	(2)エ	176~177ページ	
4 現代の消費社会	(2)エ	178~183ページ	1
5 消費者の権利と責任	(2)エ	184ページ	3
6 これからの消費生活と環境	(2)エ, オ	185~189ページ	2
ホームプロジェクト	(3)	190ページ	
私と仕事	(1)ア (2)カ	191ページ	
			(計 8)
第9章 生活を設計する			
生涯を見通す	(1)~(2)	192~197ページ	2
私と仕事	(1)ア (2)カ	198~199ページ	
			(計 2)
食品成分表	(2)ア	200~207ページ	
日本の伝統	(2)ア	見返し 5 ~ 見返し 6 ページ	
* 1 各章末の「ホームプロジェクト」の配当時数は巻頭の「生活に生きよう」, 「私と仕事」の配当時数は巻頭の「人生の主人公として生きる」に含まれます。 * 2 卷末資料の「食品成分表」「日本の伝統」の配当時数は、第 5 章に含まれます。	計		70

(備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入すること。

- 2 「編修上特に意を用いた点や特色」欄には、学習指導要領の総則に示す教育の方針や当該教科の目標を達成するため、編修上特に意を用いた点や特色を記入する。
- 3 「対照表」欄については、図書の構成・内容と学習指導要領に示す「内容」の各事項との対照について、「内容の取扱い」も踏まえて記入する。その際、「該当箇所」欄に、申請図書の該当箇所のページ（例：○~○ページ）を記入する。また、必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 4 「配当時数」欄には、申請図書で予定している配当授業時数を示すこと。なお、配当授業時数の記載が必要ない教科、種目については空欄でよい。
- 5 別紙様式9の分量は5ページ以内とする。